卒業生・修了生への学長メッセージ全文

「持続可能な未来を拓く」

本日ここに、卒業生、修了生の皆さんが令和元年度学位授与の日を迎えられたことは、岡山大学として誠に嬉しく喜ばしいかぎりです。大変残念ながら、新型コロナウィルスの感染拡大防止が極めて重要な時期と重なってしまい、今年度の学位授与式を皆さんと一緒に行うことができませんでした。私は岡山大学を代表して、卒業生・修了生の皆さんに、心よりのお祝いとともに、新たな生活に向けた餞（はなむけ）の言葉をお贈りしたいと思います。

皆さんは、これから社会人や大学院生として広く活躍されることと思います。その中で、皆さんが在学中に経験された、一昨年７月の西日本豪雨災害や今回の新型コロナウィルス感染症の件でもよくお分かりのように、現在、世界は目まぐるしい速さで変化し続けており、私たちは正に、気候、経済、疾病、テクノロジーなど全ての分野において予測困難な激動の時代に突入しています。もしかしたら、これから皆さんが巣立っていかれる新たなステージにおいても、様々な変化や混乱が皆さんを待ち受けているかも知れません。しかし、そんな時にこそ、ぜひ思い出していただきたいのが、皆さんが本学を卒業するにあたり、この岡山の地で親交を温め、切磋琢磨してきた、同級生、先輩や後輩、指導をされた先生方、そして地域の方々との深く長いつながりと、その“本当の意味”についてです。

岡山大学は現在、国連 SDGs（Sustainable Development Goals）達成貢献に向けた活動を推進しています。敢えてこれを一言で表すと、「持続可能な未来を構想すること」と言えるかもしれません。即ち、

私たち岡山大学は、未来のあるべき姿に向けて、これまでのあらゆる活動の成果を創造的に統合し、人々がより豊かに生きることを可能にする革新的プロセスを生み出すことで、持続可能な社会に貢献しようと取り組んでおります。しかし、そこには多くの課題が立ちはだかり、なかなか思うようには進みません。そのような時、私たちはしばしば、学内外の多くの皆さんとの"パートナーシップ"に支えられ、少しずつではありますが、目標に向かって前進を続けているのです。昨年に創立 70 周年を迎えた本学の、"あるべき未来の姿"に向けた成長の物語は、SDGs との出会いによって、新たな展開を見せようとしています。

そして、このたび本学を卒業・修了される皆さんが、大学そして大学院生活を SDGs 推進大学であるこの岡山大学で過ごされたこと、そしてそこで多くの皆さんと共に深い "パートナーシップ"を培ったことは、これからもそれぞれが"あるべき未来の自分"に向けた成長の物語を紡いでいく中で、必ず皆さんを支え、助けてくれるものと、私は　確信しています。その中でもし、解決困難な課題に直面し、あるべき自分の未来の　姿を見失いそうになった時は、ぜひ母校に戻り、"学び直して"下さい。必ずや新しい自分の一面を見い出すことができるはずです。私たち岡山大学は、これからも皆さんの「帰るべき場所 (Home)」として、より創造的な学びと探究の空間づくりに取り組んでまいります。

ご家族、保護者そして関係者の皆様、このたびは学位記等授与式という、とても大切な機会がこのような形になってしまい、誠に申し訳ありません。直接お伝えすることができず、大変残念ではありますが、長い間卒業生・修了生の皆さんを温かく支えてくださった、ご家族や保護者、関係者の皆様にも、心からのお祝いを申し上げたいと思います。

卒業生・修了生の皆さん、これから社会人あるいは大学院生としての新たな生活が始まります。私たち全教職員は、これからも皆さんが、母校岡山大学で学んだ伝統と精神を胸に、それぞれの新しい職場などで、自信を持ってのびのびと活躍して下さることを心から祈っております。そしていつの日か、成長した皆さんにお会いできる事を楽しみにして、私からの餞（はなむけ）の言葉とさせていただきます。このたびは誠におめでとうございました。

令和２年３月２５日

国立大学法人岡山大学長　槇野博史